

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1(小・中)

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立基里小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「児童が将来に夢や希望を持っている」と回答した保護者の割合が低かった。キャリア教育に繋がる様々な体験活動や交流活動が不十分だったのではないかとと思われる。 児童の学力向上(思考力・表現力の育成)をめざすためには、校内研究を軸にした授業力改善が更に必要である。 月平均の時間外勤務時間が市内の小中学校と比較して多い。働き方改革に向けて教職員の意識の改革、仕事の精選が求められる。 小中一貫でリモート等も活用しながら教職員の研修会等を行うことはできたが、小中学校児童生徒の交流(乗り入れ授業や体験活動)が不十分だった。
2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 ～ みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう ～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用し、キャリア教育に繋がる様々な体験活動や交流活動を工夫することで、将来に夢や目標を持ち、地域や学校を誇りに思う児童を育てる。 校内研究を軸にした授業力改善を行い、児童の更なる学力向上をめざす。 PTAや学校運営協議会との連携を図るとともに、今年度見直した教育計画を基にして、積極的に業務改善を行う。働き方改革に向けて教職員の意識を高め、時間外勤務時間の削減を実現させる。 新型コロナウイルス感染症防止を徹底しつつ、小中学校児童生徒の交流活動や教職員の研修会等を行うなど、小中一貫教育の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	評価		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・家庭学習の充実 ・読書の推進	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学校評価アンケートによる家庭学習の徹底率保護者・児童・教師各々90%以上	E19:E26・少人数指導、TTによる指導の充実 ・家庭学習重点シートを用いた家庭学習の振り返り ・貸し出し冊数の増加と読書ジャンルの広がり推進	B	B	・マイプランの成果指標95%の教師が達成した。 ・学校評価アンケートの家庭学習徹底率は、保護者69%、児童84%、教師95%。前回同様、家庭学習未提出児童に対し、教師が休み時間を使って学習させている。今後も便りや懇話会等で保護者への家庭学習の協力をお願いする。	A	・家庭学習が定着できていない児童について先生方の熱心な指導に感謝している。保護者の協力を更に期待したい。	学び部 ・学力向上対策コーディネーター
	○主体的・対話的な学びを目指した授業力改善	○学力状況調査(算数科)・CRTテスト(算数科)における思考力・判断力・表現力等の正答率を県平均を上回る。 ○授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立てたと回答する教師90%以上	・授業作りステップ1・2・3の活用 ・対話的な学びを取り入れた授業の充実 ・児童が考える楽しさを味わう授業の充実	A	A	・学力状況調査(算数科)・CRTテスト(算数科)における思考力・判断力・表現力等の正答率は、県平均・全国平均を4学年が上回った。 ・授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立てたと回答する教師は、100%だった。	A	・先生方がチェックカードを用い、授業力向上を目指して日々研鑽しておられる結果が児童の学習状況調査や・CRTの結果に繋がっていることは素晴らしい。	学び部 ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90%以上 ○アンケートにおいて、「困っている友達がいいたら助けたり、友達に嫌がることをしたりしない」と答えた児童85%以上	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・友だちを「～さん」で呼ぶようにし、思いやりの心を持たせる。 ・人権集会(なかよし集会)を行ったり、人権標語を書いたりすることで、人権について考える機会を持つ。	A	A	・アンケートで「あいさつ運動、道徳の授業、人権教育等は、思いやりの心を育てる上で効果がみられている」と答えた保護者94.6%。 ・人権集会(なかよし集会)を行ったり、人権標語を書いたりすることで、人権について考える機会を持つ。	A	・道徳の学習や人権教育の成果が出ていると思う。	心づくり部 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90%以上。 ○いじめの防止、事案への対応について、組織的な対応ができていると答える職員85%以上。	・生活アンケートの回答を確認し、いじめにつながる事案について対応する。 ・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルの確認・周知を行う。 ・いじめを認知・認知した場合、ケース会議等を開き、早急に対応する。	A	A	・アンケートで「学校での生活は楽しい」と答えた児童は96.1%、「いじめの防止、事案への対応について、組織的な対応ができている」と答えた職員は100%。各種アンケート実施後、速やかに「いじめ防止対策委員会」を開き、いじめを認知・認知した場合は早急に対応することができている。	A	・いじめの認知・認知をしっかりと行い、いじめ防止対策委員会が迅速に対応できているのは素晴らしい。	心づくり部 ・生徒指導主任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童80%	・児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動を仕組む。 ・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスポートを活用する。家庭に持ち帰り一言コメントを保護者に書いてもらうなど、保護者が知る機会を増やす。 ・コロナ禍で制限がある中ではあるが、目標をもって中学校に進学するための交流・体験活動・インタビュー活動を可能な限り行っている。	A	A	・学校評価アンケートで「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は92%。「年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスポートを活用し、保護者にも知らせる機会を作っている」と回答した職員は90%。 ・6年生は、6・8交流の「よくし先輩」で中学生に学習や部活などについての質問ができたことで、中学校への見通しを持つことができた。また高学年は、サガノ鳥栖の選手の講話を聴くことにより、自分の夢について真剣に考える機会をもつことができた。	A	・地域の大人が職業についての講演をするなど、学習と職業の繋がりを意識してもらうことも必要と考える。	心づくり部 ・キャリア教育担当
●健康・体づくり	①「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上)	・年に1回は食育に関する授業を行うよう、担任に呼びかけて実施する。 ・給食週間等で、給食のよさを伝えたり、食事で健康について考えたりする機会を作る。	B	B	・食育に関する授業を実施することができた教師は83%。 ・「健康に食事に大切である」と答える児童は、98.1%。 ・1月の給食週間で、給食のよさを伝えたり、食事で健康について考えたりする。	B	・食事で健康について、児童も保護者も学ぶ機会が欲しい。 ・地域の人と児童との給食交流会を期待している。	体づくり部 ・食育推進担当者
	②「望ましい生活習慣の形成」	○1日の睡眠時間が1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80%以上	・月に1回、保健便りや掲示物を通して、睡眠の大切さやTV・ゲームの習慣の見直しを呼びかける。 ・学年集会などでも睡眠の実態を確認し、十分な睡眠時間を確保できるよう指導する。	B	B	・保健便りや掲示物を通して、健康には睡眠が大切であることを継続的に呼びかけている。12月は睡眠に重点を置いた掲示物を作成した。 ・学年集会で睡眠の実態を把握し、下学年は9時、上学年は10時までの就寝を呼びかけている。	B	・早寝早起きをする習慣をつける施策が必要ではないかと思われる。	体づくり部 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。 ・昨年度の月平均時間外勤務時間を5時間減らす	・今年度見直した校時表を有効に活用し、放課後の業務を効率的に行う。 ・休業期間の有効活用。 ①年休取得日数を具体的に示すことで計画的に取得し、心身のリフレッシュを図る。 ②1日の業務を軽減できるよう、休業中にできることを考えて、計画的に進めていく。	B	B	・月平均時間外労働時間は、昨年度の同月と比較して4時間減。成果指標達成に向け、更に教員の意識を高めていく。 ・今年度見直した校時表や夏季休業期間を有効に利用し、見直しを持って、業務を効率的に行っている」と回答した教員は、95.5%。 ・年休取得率は、昨年度と比較して1人当たり1.5日増えている。ワークライフバランスの意識も高まりつつある。	B	・先生方が健康でなければ、子供達も19時までには退勤できない原因は何かを把握し、更に今年度も進めて欲しい。先生方の心身の健康は大切。	管理職
	○残業時間の短縮	○19時まで(定時退勤日は18時)に退勤可能な職員を目指す。 ・退勤完了が実施できている職員9割以上	・19時までに退勤する職員9割を目標とし、時間を見ながら互いに声を掛け合う。	B	B	・「19時までに退勤完了できている」と回答した職員は63.6%。9割には達成できていない。	B	・昨年度よりも、そして中間評価よりも最終評価でのびが現れているのであるから、今年度は、十分成果が見られたと誉めてよい。	衛生委員会メンバー

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	評価		
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観で教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年・学校便り等で、教科「日本語」の授業で学習した内容を保護者に知らせる。	B	B	・「教科「日本語」の授業を公開した」と回答した教員は72.7%。3学期の授業参観で、100%を目指す。 ・「教科「日本語」の授業で学習した内容を保護者に知らせたか」という質問に、2学期末時点で2回以上公開したと回答した教職員は75%。	B	・鳥栖市や佐賀県、日本の伝統文化に親しむ学習や、挨拶、マナーなど学ぶ意義は大きい。より一層保護者に学習の内容を発信して欲しい。	日本語主任
○小中一貫教育の充実	○学びと体との充実 ・特別支援教育・生徒指導・教育相談の連携 ・学力向上、交流活動の連携	○保護者による学校評価アンケートで「小中一貫教育に取り組んでいることを知っている」と回答する85%以上 ○小中合同校内研で児童生徒理解が深まったと回答する教員を80%以上 ○学力向上や交流活動を通して「次年度や中学につながる学力を身に付けさせることができた」と回答する教員80%以上	・授業の規律や改善等を小中で実践したことを小中一貫便りやHPで知らせる。 ・業務改善のためにMeetでの合同研修だけでなく、対面での合同研や具体的な指導内容の情報共有を行い、連携を深める。 ・各学年や各部会で小中を通して身に付けさせた力を話し合い実践していく。	B	B	・「小中一貫教育の取組を知る」保護者は95.7%であり、小中連携の取組を児童が家庭で話したり小中一貫便りやHP、掲示板等で知らせていることが効果的としている。 ・小中合同校内研がリモートでの報告や話し合いになり、小中で児童生徒の理解と支援が深まったとはいえない。 ・6・8や5・7交流などはリモートを活用して事前打ち合わせを密に取る等、児童生徒間のつながりを大切にしている。 ・学年での話し合いを通して、技能を身に付けさせる授業を少しずつ取り組むことができている。	B	・小中一貫教育の取組について、保護者の認知度が高いことは素晴らしい。 ・新型コロナウイルス感染症に対する状況が変わっていくに伴って、より一層小中学校の交流を活性化させるよう期待したい。	小中一貫教育コーディネーター
○地域と共にある学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○コミュニティ・スクールの4つの柱(学習支援・行事体験・環境整備・地域の安全・安心)が活発に行われていると感じた教員・保護者・学校運営協議会委員の回答率85%以上	・学校行事等の積極的な協力依頼(お茶摘み体験、運動会、交通安全教室、生活科・総合的な学習等の学習支援) ・「基里っ子見守り隊」による登下校の安全確保 ・学習環境の支援 ・活動についての情報公開(コミュニティ便り、HP、まちこみメール配信等)	A	A	・「本校は、コミュニティ・スクールの4つの柱が活発に行われていると感じている」と回答した教員95%、保護者85%。引き続き、保護者へは、HPやまちこみメール等で活動公開していく。 ・今年度は、これまでコロナ禍で取り組めていなかった活動についても感染予防に配慮しながら実施することができている。	A	・マチこみメールや学校便り、学校HPに紹介されているのを見ている。 ・コミュニティ・スクールの教職員・保護者・地域が一体感を持って更に進めて欲しい。	学校運営協議会委員 ・管理職

●...県共通 ★...鳥栖市共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を通じて、様々な地域の人材を活用することができ、各教科で体験活動や交流活動に取り組むことができた。次年度は、更に、キャリア教育に繋がる人材活用と学習の機会を持ちたい。 校内研究を軸にし、一人一人の教職員が主体的に取り組んできたことだ、どの学年においても児童の学力は向上している。 家庭や地域と連携して、情報モラル教育や読書の日常化、望ましい生活習慣の形成に関する「質実」能力の育成に努めていきたい。 校時表や行事計画の見直し、PTAや学校運営協議会との連携により、時間外在校時間を昨年度の同月と比べて4時間削減することができた。教職員の取組に対する意識も高まったので、次年度は更に、定時退勤100%と時間外在校時間の削減に努めたい。 心の教育については、いじめ・いのちを考える日の取り組みだけでなく、児童の生活の様子を教職員全員で細かく見ていくようにしたり、児童アンケートを実施して実態把握に努めたりし、学校・児童・保護者が一体となって「いじめを許さない」機運を高めてきた。今後も認知した事案には、全職員で情報共有し丁寧な指導に努めて、いじめ0を目指して指導を継続していく。 								